

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：35309

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K01928

研究課題名(和文)子どもの気質特徴に合った育児支援策としての親子ふれあい遊びプログラムの開発

研究課題名(英文) Development of children's play program with their parents based on child's temperament characteristics as child rearing aid package.

研究代表者

武井 祐子 (TAKEI, YUKO)

川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授

研究者番号：10319999

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：気質特徴に合った親子ふれあい遊びを体験すると、従来の親子ふれあい遊び体験と同様に養育者の育児に対する漠然とした不安は下がり、育児自己効力感が高まること、日常生活への取り入れることの難しさを感じることなく、より多面的に子どもについて考えるようになることが明らかとなった。また、気質特徴に合った親子ふれあい遊びは、対面実施形式、オンライン実施形式、対面実施形式を参考にオンライン実施形式に修正を加えたオンライン修正実施形式の実施形式によらず、育児に対する漠然とした不安は低下させるが、対面実施群のみが子どもへの忌避感情といった育児不安を低下させ、育児自己効力感を向上させることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

養育者が子どもとの間で日常的に行っている育児行動である親子ふれあい遊びに着目し、活動性が高くなる年齢の高い子どもにも容易に用いることが出来る介入方法という点、養育者の育児自己効力感を高め、養育者の育児不安を低減する、子どもの気質特徴に合った育児支援のためのより有効なプログラムを提供できる。子どもへの関わりに悩み、育児不安を抱える養育者を支援することが可能な効果的な育児支援プログラムの提供、普及が可能となる。

研究成果の概要(英文)：Parents and children experienced a parent-child interaction exercise program suited to the child's temperament. The results indicated that the vague anxieties of caregivers towards parenting decreased, and their sense of self-efficacy in parenting increased after the program, similar to a traditional parent-child interaction exercise program. Moreover, the caregivers were able to consider their children multifacetedly without feeling difficulties in incorporating the parent-child interaction exercise into their daily life.

Furthermore, vague anxieties about parenting decreased regardless of the format of parent-child interaction exercise suited to the child's temperament: face-to-face, online, or a revised online format based on the face-to-face format. However, only the group that experienced the face-to-face format decreased their parenting anxiety, including the aversion to the child, and experienced an increase in the sense of parenting self-efficacy.

研究分野：発達心理学, 臨床心理学

キーワード：気質 幼児 親子ふれあい遊び 育児不安 育児自己効力感 育児認識 オンライン

## 様式 C - 19 , F - 19 - 1 , Z - 19 ( 共通 )

### 1 . 研究開始当初の背景

#### (1) 本研究に関連する国内・国外の研究動向

養育者が扱いにくいと認知する子どもの特徴は気質特徴によって記述でき( 庄司, 1999; 2000 ), 乳幼児期において扱いにくい気質特徴を示す子どもであった場合, 母親の育児不安は高まる( 水野, 1998 ). つまり, 養育者が子どもの気質特徴を理解した上で適切な対応が出来ることは, 養育者の育児不安を低下させ, 健全な愛着形成を促進させるだけでなく, 子どもの健全な発達のためにも重要であると考えられる.

#### (2) これまでの研究成果, 着想に至った経緯

研究代表者らは, 子育てをめぐる不安( 育児不安 ) やストレスに影響を与える要因として子どもの気質特徴に着目し( 武井他, 2007 ), 養育者の育児不安を低減するためには気質特徴に合った育児行動が出来るという育児自己効力感を高めることが重要であることを明らかにした( 武井他, 2008 ). さらにこの知見を実践の場で検証するために, 気質特徴に合った 12 種類のベビーマッサージプログラムを開発し, 気質特徴に合ったベビーマッサージの実践が, 子どもを理解することを助け, 育児における子どもへの関わりを考えるきっかけになること, 気質特徴に合った具体的な関わり方はベビーマッサージを通して助言することが, 育児をする上での気づきや積極的な育児行動につながるなど有効性を確認した( 武井他, 2016 ; 2021ab ). しかし, ベビーマッサージは日常的に行う育児行動ではないこと, 活動レベルが高まる 1 歳後半以降になると行うことが難しいなどの課題があった. そこでより日常生活に組み入れやすく, 幼児期以降も継続できるプログラムの開発が必要であるとの着想に至った.

### 2 . 研究の目的

育児をする上での養育者の育児自己効力感を高め, 育児不安を低減する子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムを開発し, その実践と普及のためのパンフレットを作成し, 効果検証をおこなうことによって, 育児支援のための具体的方策として提案することをめざす.

### 3 . 研究の方法

2014 年度から行っている気質特徴に合ったベビーマッサージプログラムの開発および効果検証で用いた調査フィールドと調査手法を用いて研究をすすめた.

#### (1) 2017 年度 気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの作成および予備調査

武井( 2016 ; 2021ab ), 門田( 2017 ) や奥富( 2014 ) の研究結果を参考に, 子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの内容を考案した. その後, プログラムの妥当性を検証するために, 4 歳までの幼児と養育者を対象とし, 調査を実施した. 母親が気質質問紙に回答後, 気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムを実施した. プログラムの実施直後および 1 ヶ月後にアンケートを行った. アンケートで得た内容をもとにプログラムを修正した.

#### (2) 2018 年度および 2019 年度 気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの効果検証

2017 年度に作成した気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの介入効果の検証を行った. 4 歳までの幼児と養育者を対象とし, 調査を実施した. 養育者が気質質問紙に回答後, 気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムを実施した. プログラムの実施直後および 1 ヶ月後にアンケートを行った. アンケートで得た内容で効果を検証した. 子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムを完成し, その実践と普及のためのパンフレットを作成した.

#### (3) 2020 年度及び 2021 年度 オンライン実施による気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの開発

2019 年度末から全国的に拡大した, 新型コロナウイルス感染症により, 研究計画を一部変更した. 2019 年度まで実施してきた対面実施形式だけでなく, 気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムのオンライン実施形式を考案し, 効果を検証した. 2021 年度は, 2020 年度の調査結果をもとに, 2020 年度に実施したオンライン実施形式の気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムに修正を加えたオンライン修正実施形式で調査を実施し, 効果を検証した. 4 歳までの幼児と養育者を対象とし, 調査を実施した. 養育者が気質質問紙に回答後, オンライン修正実施形式で気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムを実施した. プログラムの実施直後および 1 ヶ月後にアンケートを行った. アンケートで得た内容で効果を検証した. 2020 年度, 2021 年度の調査結果より, オンライン実施形式での子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの有効性を明らかにした.

#### (4) 2022 年度 対面実施による気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの効果検証

2021 年度までの調査結果を踏まえ, 気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムを対面で開催し, 調査を実施した. 4 歳までの幼児と養育者を対象とし, 調査を実施した. 養育者が気質

質問紙に回答後、気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムを対面で実施した。プログラムの実施直後および1ヶ月後にアンケートを行った。アンケートで得た内容で効果を検証した。

表1 プログラムの実施場所と手続き

	 対面実施群 (n=10)	 オンライン実施群 (n=18)	 オンライン修正実施群 (n=10)
実施場所	会場	会場(3か所) あるいは自宅	会場(1か所) あるいは自宅
気質特徴の説明の方法	対面での説明	1か所の会場は対面での説明 他の会場あるいは自宅は オンラインでの説明	会場は対面での説明 自宅はオンラインでの説明
子どもの気質特徴の フィードバックの方法	書面と口頭で個別に説明	書面のみで結果を説明	書面と口頭で個別に説明
気質特徴に適合した 親子ふれあい遊び の説明の方法	対面での説明	オンラインと動画で説明	オンラインと動画で説明 会場でスタッフが補足説明

#### 4. 研究成果

##### (1) 子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの開発と効果検証

気質特徴に合った親子ふれあい遊び体験が養育者の育児不安や育児自己効力感にどのような影響を与えるのか、どのような育児認識と関連しているのかについて、従来の親子ふれあい遊び体験との比較によって明らかにし、子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの有効性を検証した。結果、どちらの親子ふれあい遊びを体験しても、育児に対する漠然とした不安は下がり、育児自己効力感が高まること、子どもや養育者への効果を実感していることが明らかとなった。一方、養育者の育児不安への効果は、従来の親子ふれあい遊び体験と子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムでは異なっており、子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムでは、日常生活への取り入れることの難しさを感じることなく、より多面的に子どもについて考えるようになっていた。気質特徴に合った親子ふれあい遊びは、従来の親子ふれあい遊びと比較して、日常生活に取り入れられる可能性が高く、養育者が育児をする上でより有効な育児支援プログラムの1つになると考えられる。



図1 作成した気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムを紹介するパンフレットの一部分

##### (2) オンライン実施形式での子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの開発と効果検証

2019年度末から全国的に拡大した、新型コロナウイルス感染症により、研究計画を変更した。気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムをオンライン形式で実施し、効果を検証した。気質特徴に合った親子ふれあい遊びを、対面実施形式、オンライン実施形式、対面実施形式を参考にオンライン実施形式に修正を加えたオンライン修正実施形式で、養育者の育児不安と育児自己効力感にどのような効果の違いがあるのかを明らかにし、オンライン実施形式での子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの有効性を検証した。対面実施形式、オンライン実施形式、オンライン修正実施形式の調査結果を分析した結果、実施形式によらず、育児に対する漠然とした不安は下がることが明らかとなった。一方、対面実施形式のみで、子どもへの忌避感情といった育児不安が下がり、育児自己効力感が上がることが明らかとなった。気質特徴に合った親子ふれあい遊びは、オンライン実施形式でも対面実施形式と同様に、養育者に対して効果的な育児支援プログラムではあるが、対面実施形式と同様に養育者の育児自己効力感を高めるようなオンライン実施形式による育児支援のプログラムを提供するためには、さらに内容についての検討が必要であると考えられる。

< 引用文献 >

- 庄司 順一 (1999). 子どもの気質と発達について．気質概念とその小児科臨床への適用，小児科，40(8)，995-1000．
- 庄司 順一 (2000). 乳幼児の気質と発達．ぐんま小児保健，58，58-68．
- 水野 里恵 (1998). 乳児期の子どもの気質・母親の分離不安とのちの育児ストレスとの関係：第一子を対象にした乳幼児期の縦断研究．発達心理学研究，9，56-65．
- 武井祐子，寺崎正治，門田昌子 (2007)，幼児の気質特徴が養育者の育児不安に及ぼす影響．川崎医療福祉学会誌，16(2)，221-227．
- 武井祐子，寺崎正治，高尾堅司，門田昌子 (2008)，養育者との面接からとらえた育児不安についての質的研究．川崎医療福祉学会誌，18(1)，219-225．
- Yuko Takei, Masaharu Terasaki, Masako Kadota, Yoichi Okutomi and Itsuko Takeuchi (2016), Effects of baby Massage Based on Child's Temperament Characteristics on Child-Rearing. Kawasaki Journal of Medical Welfare, 22(1), 33 -45．
- 武井祐子，門田昌子，奥富庸一，竹内いつ子，岡野維新，岩藤百香，寺崎正治(2021a)，気質特徴に適合したベビーマッサージプログラムが養育者の育児不安および育児自己効力感に及ぼす効果の検討．小児保健研究，80(1)，38-45．
- 武井祐子，門田昌子，竹内いつ子，岩藤百香，岡野維新，寺崎正治(2021b)，子どもの気質特徴に適合したベビーマッサージが養育者の育児上の気づきと認識に及ぼす影響．川崎医療福祉学会誌，31(1)，73-79．
- 門田昌子，寺崎正治，奥富庸一，武井祐子，竹内いつ子 (2017)，子どもの気質と関連する遊びが養育者の遊びにおける対処可能感を介して育児不安，育児満足に及ぼす影響．パーソナリティ研究，25(3)，206-217．
- 奥富庸一 (2014)，親子を対象にした運動遊びプログラム『親子ふれあいパーク』．倉敷市立短期大学研究紀要，(57)，53-61．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 武井祐子	4. 巻 37
2. 論文標題 子どもの気質特徴とコミュニケーション：臨床との出会いから研究を通じてあきらかになったこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コミュニケーション障害学	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 岡野維新, 寺崎正治	4. 巻 29(2)
2. 論文標題 気質特徴に適合した親子ふれあい遊びが養育者の育児認識, 育児不安および育児自己効力感に及ぼす効果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川崎医療福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 279-292
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 武井祐子, 門田雅子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岡野維新, 岩藤百香, 寺崎正治	4. 巻 13
2. 論文標題 子どもの気質特徴のフィードバックと親子ふれあい遊び体験が養育者に与える効果	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理・教育相談室年報	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井祐子, 門田雅子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岡野維新, 岩藤百香, 寺崎正治	4. 巻 33(1)
2. 論文標題 気質特徴に適合した親子ふれあい遊び体験が養育者の育児不安及び育児自己効力感に及ぼす効果 - 対面あるいはオンラインによる実施形式の違いの検討 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 川崎医療福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岡野維新, 岩藤百香, 寺崎正治
2. 発表標題 オンライン形式での気質特徴に適した親子ふれあい遊び体験が養育者の育児不安及び育児自己効力感に及ぼす効果
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 岡野維新, 寺崎正治
2. 発表標題 幼児期の子どもの気質タイプと養育者の育児不安および育児自己効力感
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 岡野維新, 寺崎正治
2. 発表標題 気質特徴に適した親子ふれあい遊び体験の養育者への効果 - 子どもの気質タイプ別養育者の育児不安・育児自己効力感への効果 -
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第29回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥富庸一, 武井祐子
2. 発表標題 乳幼児の気質特徴からみた親子ふれあい遊びへの関わり方
3. 学会等名 日本幼少児教育学会 第39回大会（春季：加須大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 岡野維新, 寺崎正治
2. 発表標題 気質特徴に適した親子ふれあい遊びが養育者の育児不安および育児自己効力感に及ぼす効果
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 岡野維新, 寺崎正治
2. 発表標題 親子ふれあい遊び体験が育児認識に及ぼす影響 親子ふれあい遊びと気質特徴に適した親子ふれあい遊びの比較より
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第28回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武井祐子
2. 発表標題 子どもの気質特徴とコミュニケーション - 臨床との出会いから研究を通して明らかとなったこと -
3. 学会等名 第45回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武井祐子, 門田雅子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岡野維新, 岩藤百香, 寺崎正治
2. 発表標題 子どもの気質特徴のフィードバックと親子ふれあい遊び体験が養育者の子ども理解や育児認識に及ぼす影響
3. 学会等名 第65回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 岡野維新, 寺崎正治
2. 発表標題 子どもの気質特徴フィードバック後の親子ふれあい遊び体験の効果
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第27回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 岡野維新, 寺崎正治
2. 発表標題 子どもの気質特徴に適合した親子ふれあい遊びの効果 養育者の育児意識や育児行動に及ぼす影響
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 寺崎正治
2. 発表標題 子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの開発～保護者の思いと期待から～
3. 学会等名 岡山県小児保健協会研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 寺崎正治
2. 発表標題 子どもの気質特徴に合った親子ふれあい遊びプログラムの開発～実施1ヶ月後のアンケート結果から～
3. 学会等名 岡山心理学会第65回大会
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 岡野維新, 寺崎正治
2. 発表標題 気質特徴に適合した親子ふれあい遊び体験が養育者の育児不安及び育児自己効力感に及ぼす効果 - 対面あるいはオンラインによる実施形式の違いによる検討 -
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武井祐子, 門田昌子, 奥富庸一, 竹内いつ子, 岩藤百香, 岡野維新, 寺崎正治
2. 発表標題 気質特徴に適合した親子ふれあい遊び体験が養育者の育児認識に及ぼす効果 対面あるいはオンラインによる実施形式の違いによる検討
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第31回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥富 庸一 (OKUTOMI YOICHI) (00375445)	立正大学・社会福祉学部・教授  (32687)	
研究分担者	門田 昌子 (KADOTA MASAKO) (20549620)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師  (35309)	
研究分担者	竹内 いつ子 (TAKEUCHI ITSUKO) (30760665)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師  (35309)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩藤 百香  (IWADO MOMOKA)  (80612986)	川崎医療福祉大学・医療福祉マネジメント学部・講師    (35309)	
研究分担者	岡野 維新  (OKANO ISHIN)  (10824021)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・助教    (35309)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関